

市区町村名	愛媛県松前町	担当部署	保健福祉部町民課
		電話番号	(089) 985-4228

1 取組事例名

交通事故を減らすまちづくりプロジェクト
～官民協働による安全・安心なまちづくりを目指して～

2 取組期間

平成 24 年度～（継続中）

3 取組概要

行政主導の交通安全対策ではなく、地域住民や学生による「安全なまちづくり」ワークショップ等を実施し、交通安全対策を様々な視点で捉えるとともに、安全・安心なまちづくりを支える地域コミュニティ力の向上を図る。

また、意識啓発のためのポスター等に町長や住民が参加するとともに、地域資源を活用した内容にすることで、「交通安全×まちのPR」を町内外に広く発信する。

4 背景・目的

平成 20 年 4 月の大型商業施設の出店以降、町外からの流入車両の増加により、町内における交通事情は大きく変化した。また、町内幹線道路整備の進展に伴い、これまで以上に交通量が増加することは確実である。

本町の人口 10 万人に対する本町の交通事故件数の割合は、平成 22 年に県下ワースト 1 となるなど、交通安全面における環境の整備が急務となり、特に、徒歩や自転車等を移動手段とする高齢者や児童・生徒に対する安全の確保が課題となった。

そこで、交通安全に携わる関係機関やNPO、地域住民等が一体となって交通弱者に配慮した交通安全対策に取り組み、誰もが安心して暮らせる安全なまちづくりを目指す。

5 取組の具体的内容

<平成 24 年度>

過去の交通事故データをもとに危険箇所を検証し、歩行者や自転車運転者の視点から危険箇所を認識できる町内の交通事故危険箇所マップを作成した。

作成したマップは、町内全ての家庭や企業・施設に配布するほか、交通安全啓発イベントや小・中・高校での講習会、高齢者サロンでの啓発活動に使用した。

<平成 25 年度>

ワークショップにおいて、交通安全を様々な視点で捉え、町内外の多くの人々の意識啓発につながるポスターを作成し、公共機関のほか、各種企業や団体等、町内の各所に掲示する等、交通安全への意識啓発活動を行った。

<平成 26 年度>

ポスターの活用方法を検討するとともに、町道筒井徳丸線「想い通り」を取り入れたサイクリングイベントを実施し、近年増加しているサイクリストに向けて、セーフティライドの意識を向上させる取組を行った。

<平成 27 年度>

ポスターを基にした 3 種類の幟旗を作成し、町内の主要幹線道路沿いや危険箇所に掲示することで、ドライバーや自転車運転者、歩行者に対して交通安全の啓発を行うほか、「レッツ プット オン」活動により、自転車運転者へのヘルメット着用の啓発も行った。

町長や住民の参加による幟旗・ポスター



6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

マップの作成では、関係機関のほか、大学生にも参加してもらい、自動車運転者だけでなく、高齢者や障がい者、子ども等の視点からの危険箇所の検証も行った。

ポスターの作成では、「交通安全啓発」という硬いイメージを払拭するため、協議会委員自らが笑顔で撮影に参加。更には、「交通安全×まちのPR」を可視化できるものとするため、町の名物や特産品を使用したものを 3 種類作成し、それぞれに町長、副町長、住民が参加するなど、住民の関心を集めるものとした。

7 取組の効果・費用

平成 22 年度に人口 10 万人に対する交通事故件数及び死傷者数ともに県内ワースト 1 であった本町が、平成 25 年度には 5 年ぶりに死亡事故ゼロを達成するとともに、交通死亡事故ゼロ連続 500 日を達成し、「交通安全対策優良市町表彰」を受賞した。

また、各種啓発イベントでは、地域、企業、学生、警察、行政など、様々な関係者が一緒になって交通安全を呼びかけることで一体的な発展へとつながった。特に、初めて学生が参加することにより活動の活性化が図られた。

マップやポスターといった成果品は、住民が主体となり、様々な関係者が一緒になって作り上げたものであるため、話題性や広がりを持続性があり、多くの方々の意識啓発につながった。

<費用>

平成 24 年度	100 千円（マップ制作委託料）、357 千円（マップ印刷代） 171 千円（ワークショップ委託料）
平成 25 年度	821 千円（ワークショップ・ポスター作成委託料）、267 千円（クリアファイル） 46 千円（ポストカード）
平成 26 年度	220 千円（ポスター増刷印刷製本費）、176 千円（ワークショップ委託料）
平成 27 年度	270 千円（幟旗作成委託料）

<事故件数>

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
発生（件）	219	211	179	160	147	108	115
死傷者数（人）	267	281	215	191	174	121	130

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

住民の声を大事にし、住民が主体的に気持ちよく参加できる環境づくりに努めた。

ポスターの作成では、「まちのPR」要素を組み込むため、限られた日程、限られた予算での撮影が必要で、周囲の理解や協力が不可欠だった。結果的には、様々な分野の方が趣旨に賛同・協力してくれたおかげで、安全なまちづくりへの思いを共有し、この活動を広げていくことができた。

9 今後の予定・構想

成果品の更なる活用方法を検討するワークショップの場を設定。松前町交通安全推進協議会が安全なまちづくり組織として結束し、さまざまな関係者と協働し、今後自立した団体として運営していく基盤ができるよう導く予定。

住民自らが考え、行動する組織の確立のため、今後も幅広い啓発活動を展開したい。また、大学生や高校生にも参加してもらうことにより、若者の視点も取り入れた斬新なアイデアで、活力のある安全なまちづくりを行う。

10 他団体へのアドバイス

交通安全の啓発活動は、行政からの一方的な啓発になりがちだが、住民自らが交通安全の実践者であることを自覚し、安全で安心な地域社会をつくっていかうとする前向きな意識を持つようにすることが重要となってくる。

そこで、住民が交通安全に関する各種活動に直接参加するなど、地域のコミュニティ力を生かせるような仕組みづくりが必要である。